

Canforo

カンフォロ

愛媛県美術館ニュースNo.25 2005

No. 25

Exhibition 企画展

THE WORK OF CHARLES & RAY Eames

チャールズ&レイ・イームズ 創造の遺産展

平成17年5月3日[火] - 6月12日[日]

ただし5月6日(金)、9日、16日、23日、30日の月曜日、6月7日(火)は休館

●会場/新館1階[企画展示室]

●観覧料/大人1,000円、高大生700円、小中生500円

※その他料金設定については、美術館までお問い合わせください。



「マスマティカ」展の会場模型と夫妻
© Eames Office, from the collection of the Library of Congress

イームズ夫妻、チャールズ・イームズ(1907-78)とレイ・イームズ(1912-88)は20世紀アメリカを代表するデザイナーです。一般的に「イームズ・チェア」と呼ばれ、世界中で親しまれている数々の椅子を世に送り出したことで知られています。

木、スチール、アルミニウム、プラスチック等、様々な素材を使って夫妻が創り出した椅子はどれもおしゃれで、今でも斬新な印象を与えるものばかりです。これらは当時の最先端の技術を駆使して生まれたものだったのです。中でも、うすい板を重ねた合板ごうばんに力を加えて自由自在に変形させた、成型合板せいけいごうばん (Plywood) の椅子は革新的でした。これはイームズ・チェアの原点と言えるでしょう。

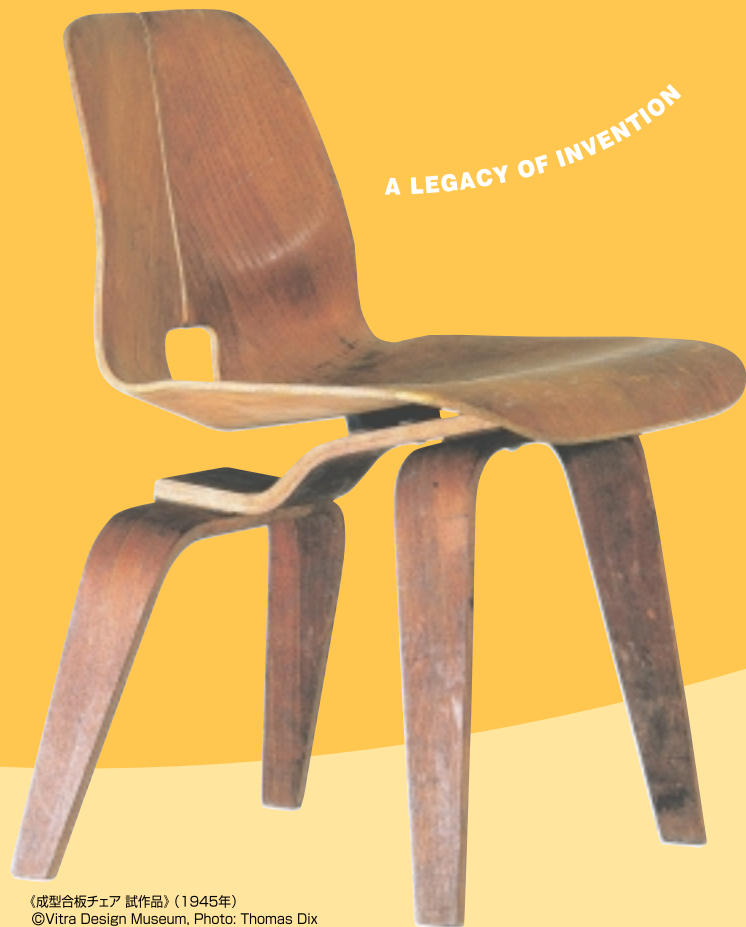
この成型合板を使った椅子を先に発表したのはアルヴァ・アアルト(1898-1976)。有名なフィンランドの建築家です。イームズ夫妻はこれを越える、椅子の背と座の部分が一体となった、シェル型の椅子を目指したのです。これを実現するためには、合板を思い通りに3次元的に湾曲させる高度な技術が必要となります。時代は第2次世界大戦、足の怪我をした兵士のための添え木を改良しつつ、夫妻はこの合板の研究を続けたのです。(写真は試作品の中のひとつ。)

そして生まれたのが木の椅子、DCW (Dining Chair Wood)。シェル型に近い、人の体の線に沿ったやさしい形の秀作が完成したのです。

チャールズは建築、レイは抽象絵画を学んでいました。この2人が力を合わせることによって思いがけないアイデアが生まれます。家具だけにとどまらず、科学や数学、歴史など幅広い分野の短編映画や展覧会プロジェクトを次々と手がけたのです。夫妻の好奇心は尽きることがありませんでした。

イームズ夫妻の住んだ家、そしてそのアイデアの世界を再現します。この展覧会でイームズ夫妻の遺したものに触れてみてください。

学芸員 杉山 はるか



《成型合板チェア 試作品》(1945年)
©Vitra Design Museum, Photo: Thomas Dix

関連事業

くるくるショー

申込不要

紙で“くるくる”を作り、“くるくる”が舞い降りる空間を楽しもう。

● 5/7(土) 10:30~12:00
14:00~16:00

※開催時間中、ご自由にご参加ください。

空想動物園

申込不要

木っ端を組み合わせて、動物を作ってみよう! 美術館のエントランスは動物園に早変わり?

● 5/14(土) 10:30~12:00
14:00~16:00

※開催時間中、ご自由にご参加ください。

シンポジウム

申込不要

イームズ・デザイン&地域におけるモダンデザイン

● 5/15(日) 13:00~16:30

● 講師: 藤田治彦(大阪大学大学院教授)
花田佳明(神戸芸術工科大学教授)

ギャラリートーク

申込不要

学芸員による展覧会の解説を行います。

● 5/21・28・6/11 (各土曜日) 各14:30~

※観覧券または友の会会員証が必要です。

Tシャツをデザインしよう

Tシャツにシルクスクリーンでオリジナルのデザインをプリントしよう。

● 6/4(土) 10:30~16:30
● 6/5(日) 10:30~16:30

※いずれかを選択
●対象及び定員/中学生以上・各8名
●材料費/800円程度

※お申込みについては当館普及係までお問い合わせください。

物外と江戸時代の書

—僧侶の書・儒学者の書—

会 期：平成17年1月6日(木)～3月13日(日) 月曜日休館

会 場：新館2階 [特別展示室3]

観覧料：大人500円(400円)、高大生400円(320円)

※()内は20名以上の団体割引料金。小中生・高齢者・身障者・友の会会員等は無料。

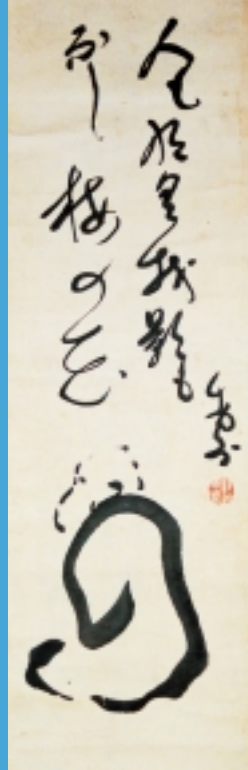
今回、拳骨和尚の異名をとる物外不遷(1785-1867)の作品を中心に伊予ゆかりの江戸時代の人々の書をご覧頂きます。

江戸時代初期、明末清初に來朝した黄檗宗僧がもたらした明の書法に影響を受けた唐様の書は、幕府が儒学を正学としたことで飛躍的な広がりを見せます。儒学者の書は、その立場をあらわすかのように謹厳な書風を見せています。

一方、徳川幕府の宗教政策によって、江戸時代の仏教は主体性を失ったといわれますが、そのような世相でも真摯な求道者たちが、各地で熱心な活動を繰り広げました。それらの僧侶の書は自在で闊達なものあり、稚拙ながらも味わいのある画があり、とそれぞれに個性を発揮しています。

ここに紹介するのは、儒学者や僧侶であり、書画を生業とする人々ではありません。ですが、彼らが求められ、またその教えを広めるため、或いは余技としてしたためた書画は、様々な展開を見せました。江戸時代の書の意外な個性の数々をお楽しみください。

学芸員 西田 多江



物外不遷(人物画賛)

小さな永遠 —吉田勝彦の版画

会 期：平成17年1月29日(土)～3月13日(日) 月曜日休館

会 場：愛媛県美術館分館 郷土美術館2階

観覧料：大人100円(80円)、高大生50円(40円)

※()内は20名以上の団体割引料金。小中生・高齢者・身障者・友の会会員等は無料。

ほの暗い部屋の片隅に差し込む光—吉田勝彦の版画には、見なれた光景に永遠の宿る瞬間があります。1947年生れの吉田は、スペイン滞在、ベネズエラの美術学校での教授経験を経て、30代で患った目の病を克服する中で、何気ない風景や身の回りのありふれたものから冴え渡るようなイメージを生み出してゆきました。

本展では、ビュランをはじめ、銅版画の様々な技法による作品約20点をご覧頂きます。樹皮の肌合いや生い茂る葉の一枚一枚を写し取るエッチングの線。夜の街並みを浮かび上がらせるメゾチントの明暗。丹念に仕上げられた画面は、時間が止まったかのような静けさをたたえながらも、見るほどに私たちを惹き込んでゆきます。対象を克明にとらえる作者の目と、版を刻む熟練した手を思いつつ、日常に息づく「小さな永遠」を感じとって頂ければ幸いです。

学芸員 箱田 千穂

著作権等の関係により
図版を削除しております

吉田勝彦《小さな永遠》1981年

ボランティア座談会(報告)

開館記念日にあたる昨年(16年)の11月27日、館長、副館長同席により美術館ボランティア座談会が開かれました。現在、当館のボランティアには50名程の方が登録され、図書コーナーの受付、美術に関する新聞記事の入力等をして頂いています。当日は12名が出席され、普段は交代制の活動であるため、今回が初めての顔合わせとなった方々もおられました。参加者からは、活動を始めた動機、普段の活動を通しての感想や要望とともに、美術館をより魅力的にしていこうための意見など、利用者スタッフとの間に立った視点で貴重な声を頂くことができました。担当者としては、こうした声を踏まえて、皆さんが楽しみながら、気持ちよく活動できる環境作りをしていきたいと、思いを新たにしました。

学芸員 箱田 千穂

美術館日記

11月27日は新館の開館記念日でした!

空の青さが鮮やかだったこの日、開館を記念した各種の行事を実施しました。ピアノや民族楽器による演奏会、館長の記念

講演会、見合わせやつむぎなどの普及講座、友の会の写真会など、賑わいのある1日となりました。開館以来、展覧会だけでなく、普及講座や公開制作、ギャラリートークや講演会や演奏会、県民アトリエや貸しギャラリー、美術教室(友の会)などの事業を展開し、県民



に開かれた美術館をめぐる行事も盛り込みました。そうした願いや工夫が凝縮した1日でした。これから美術館を生活の潤いの一つに活用していただければ幸いです。詳しくは、ホームページなどの当館からの情報発信にご注目ください。

普及係長 川上 周二



随想「一枚の絵の生かし方」

矢野 徹志(元愛媛県美術館協議会委員)

セザンヌ、ポール《水の反映》



以前、南仏の美術館巡りで訪れたことのある、セザンヌの故郷エクス＝アン＝プロヴァンス。その町のグラネ美術館が、2000年の夏にセザンヌの代表作を集めた特別展を開いている。

その展覧会に愛媛県美術館所蔵のセザンヌ作の「水の反映」が出展され、作品引継ぎに愛媛から館員が派遣され、返却に当たっては、グラネ美術館長が来県し、ちょっとした海外文化交流のさざ波が立った。

愛媛もやっと海外へ雄飛する程に国際的になったものか、自身の学芸員在職時代に照らして、少なからず感慨を覚えた。

そして、この一枚の絵が開いたエクスの町と愛媛を継ぐ交流のドラマを、その話題性ととも、内外に伝えて、愛媛の美術館をアピールする絶好の機会が到来している事を思った。

学芸員が見た「セザンヌの町エクス」の帰朝報告会。グラネ美術館長の来県を捉えて、セザンヌ展における「水の反映」の評価をテーマとする講演会等、様々な企画が期待された。そこでは既製のハイビジョンギャラリーは出る幕はない臨場感が演出できるはずだった。

ところが、その事は、わずかに話題となっただけで、両館の作品の「引継業務」の範囲のやりとりの中で、折角のチャンスを生かすことなく可能性をはらんだ展覧会は幕を閉じていたのである。

勿論、企画展や巡回展に伴う作品の移動に当たっては、それが国内であれ、海外であれ、両館の専門職が立ち合う事は、重要な美術館の責務であり、その1点に視点を置くなら、「引継業務」をつつがなく果たし、展覧会は無事に終わったという事になるだろう。

けれども、もっと重要なことは、愛媛という地平に引き寄せて、作品に光を当て、作品のもつあらゆる可能性を読み解き、「企画」へと生かす視点ではなかったか。ローカルに発して、グローバルな地平へと開くダイナミックな「企画力」を期待したいものである。

この作品に限らず、作品たちはいつも活躍の舞台へと番番を待ち続けており、新しい光を浴びたがっている。その意味では、「作品」は時代とともに生き続けており、生かされながら、新しい履歴を加え続ける存在なのである。

そういえば、来年の2006年はセザンヌ没後100年を迎える。

普及レポート

「屏風の居場所」平成16年10月13日(土)

2度目となった屏風の居場所。今回は「江戸絵画への熱いまなざし インディアナポリス美術館名品展」にあわせて開催しました。ケース内に展示されている屏風を鑑賞した後、本来の鑑賞の形に近づいて、畳の上、行灯のもとで、屏風の歴史や仕組みを学び、屏風を体験しました。伸縮自在な形の面白さや、行灯に照らされた金地の輝きに驚きの声をあげる方もおられ、ガラス越しの展示では中々伝えることができない屏風の魅力を感じていただけたと思います。本来身近な存在であった日本美術に親しんでいただく講座を今後も開催する予定ですので、お楽しみに。

学芸員 西田 多江



「井川惺亮一色の広がりー公開制作」平成17年1月8日(土)~30日(日)

美術館の2005年は井川惺亮氏を招いた公開制作により始まりました。

今回の公開制作では作家の作品を鑑賞すること、作家の制作を追体験することで、作家の制作姿勢に迫るものとなりました。


まず、井川氏の作品展示では、既製の9つの色をシステムティックに着彩した和紙や枝を城山やクスノキのある中庭の風景と融合させ、ガラス壁面などに配置し、建物の内と外とを結ぶ空間が生まれました。殺風景だった美術館周辺の空間が、突如、色彩にあふれ、一足先に春が訪れたようでした。

8~10日に行われた井川氏によるワークショップでは、和紙を折り紙の要領で折り、折った状態の面に着彩し、広げると折り込んだ部分の余白によって色が拡散される絵を制作しました。参加者は紙を広げた瞬間の画面の意外な変化に驚き、芸術的な出来栄を楽しんでいました。その後、完成した作品は参加者自らで井川氏の作品と同じ空間に展示し、鑑賞会を行いました。個々の作品が1つの作品としてまとまりを見せたり、外の風景の一部となったり、展示によって付加される効果を井川氏とともに実感しました。

この公開制作における井川氏の日常との調和を図った色の広がる空間は、参加者、鑑賞者に美術の楽しさ、広がりを見せてくれたのではないのでしょうか。

主任学芸員 石崎 三佳子



		2	3	4	5
企画展示室		日本美術院の巨匠たちと愛媛の画家たち TOPICS 2/11(金)-3/21(月)			チャールズ&レイ・イームズ創造の遺産展 P.1 5/3(火)-6/12(日)
常設展示室	1.日本画・書	冬の景色 1/6(木)-3/13(日)	新収蔵品展 3/16(水)-5月		近代日本画の巨匠たち 5月-7月
	2.洋画	人を描く:肖像、裸婦、デッサン 11/10(水)-3/13(日)	新収蔵品展 3/16(水)-5月		名作のゆくえ-洋画さまざま 5月-7月
	3.現代美術	夢 イメージの世界 11/10(水)-3/13(日)	色彩のダイナミズム 3/16(水)-7月		
特別展示室	1.西洋美術	19~20世紀の絵画・彫刻 1/6(木)-5月		 モネ、クロード(アンティープ卿) 中野和高(少女像) 著作権等の関係により図版を削除しております	
	2.福田平八郎	冬の風物 1/6(木)-3/13(日)	春の風物 3/16(水)-5月		初夏の風物 5月-7月
	3.郷土作家	物外と江戸時代の書 P.2 1/6(木)-3/13(日)	中野和高 3/16(水)-5月		中川八郎 5月-7月
ハイビジョンギャラリー		上映時間 ①10:30 ②13:30 ③15:30 TOPICS ※プログラムは館内に掲示、配布しています。			
分館		小さな永遠 -吉田勝彦の銅版画 P.2 1/29(土)-3/13(日)			

TOPICS.1

日本美術院の巨匠たちと愛媛の画家たち

2/11(金)-3/21(月)

日本の近代において最も重要な役割を果たしてきた美術団体の一つである日本美術院(院展)。

当館所蔵の日本画の中から、その日本美術院で活躍した狩野芳崖・横山大観・菱田春草などの巨匠たちの作品とともに、本県出身でもある大智勝観・高橋周桑・四田観水などの作品を展示します。

関連講座

【日本画の近代と日本美術院】

●2/20・3/6・20(各日曜日・全3回) 各10:30~12:00
●対象及び定員:高校生以上・60名



菱田春草(放鶴)

TOPICS.2

ハイビジョン・ギャラリー 春休み特別企画 「楽しいムーミン一家」ふたたび!!

入場無料

夏休みに大好評だったムーミンの冒険シリーズを、3月・4月中毎日(休館日を除く)10:30より(25分間)上映いたします。ご家族そろってご覧ください。

13:30、15:30からは「世界の美術館」シリーズを上映いたしますので、お子様から大人の方までお楽しみいただけます。

●詳しくは、ハイビジョン・ギャラリー上映予定を館内で配布しておりますので、ご参照ください。

学芸員によるギャラリートーク

毎月第2、第3土曜日 14:30~

3/12のテーマは 名作に隠されたストーリー~安田靉彦「守屋大連」、梶田半古「鶴越」から~ 担当:川上 周二 普及係長



INFORMATION 17年度企画展紹介

見ごたえのある展覧会を用意しています。全展覧会を制覇しよう!

◆【チャールズ&レイ・イームズ創造の遺産展】

平成17年5月3日(火)-6月12日(日)

◆【国立美術館巡回展「名作とは何か?」】

平成17年6月24日(金)-7月31日(日)

◆【聖徳太子と国宝法隆寺展】

平成17年8月13日(土)-9月19日(月)

◆【館蔵品展「野間仁根」】

平成17年10月22日(土)-12月11日(日)

◆【愛媛の名工展】

平成18年1月6日(金)-1月29日(日) (観音菩薩立像(夢達観音像))

◆【サルバドール・ダリ生誕100年記念展「ダリの宇宙」】

平成18年2月10日(金)-3月26日(日)



ご利用案内 ■開館時間:9:40~18:00(入場は17:30まで) ■休館日:毎週月曜日(祝日及び振り替え休日に当たる場合は、その翌日)12/29~1/3

アトリエ 利用時間 9:40~18:00

創作活動のできるスペース、アトリエはどなたでも自由にご利用いただけます。お申し込みは、お電話か、直接来館して予約してください。

- 利用内容:版画・木工・染織・写真・粘土など
- お問い合わせ先:ふれあいアートセンター tel.089-932-0147

講堂・研修室・県民ギャラリー

講演会、研修、作品発表の会場として講堂(定員120名)、研修室(定員56名)、県民ギャラリー(12室)がご利用いただけます。料金等、詳細については、当美術館総務課まで、お問い合わせください。

【交通案内】

- JR松山駅前より道後温泉または市駅前行き市内電車で5分。「南堀端(愛媛県美術館前)」下車、徒歩1分。
- 松山観光港より、リムジンバスで30分。「市駅」下車、徒歩5分。
- 松山空港より車で15分。
※駐車場は、県庁西駐車場を利用することができますが、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関等のご利用をお願いします。

お知らせ

平成17年4月から6カ月間、毎月第1月曜日開館、翌日曜日休館を試行します。

ハトの声(編集後記)

今回は発行が遅れ、この「ハトの声」を愛読されていた方にとっては、もしや廃刊ではと心配いただいたのではないのでしょうか。実は、来年度の予定をより早く紹介するために、少し時機を見合わせていました。来年度も、カンフォロの行方に乞うご期待!(M.I.)



愛媛県美術館

〒790-0007 愛媛県松山市堀之内
TEL 089-932-0010 FAX 089-932-0511
<http://joho.ehime-iinet.or.jp/art/>

